

「賀川豊彦のお宝発見」 その3

新聞記事にみる賀川豊彦 (14)


1910 (明治43) 年~1963 (昭和38) 年 (神戸版)

第14回 「馬島ドクトルの米国留学」

1921 (大正10) 年7月21日「毎日新聞兵庫県付録」

馬島氏の家庭

山高く水清き小丸川のほとりに呱呱の聲をあげ、世界的偉人として知られたる石井十次氏に私淑せる
貧しき人々の爲に
身を捧ぐる馬島ドクトル



馬島氏令妹久子、馬島ドクトル、長女洋子

向つて右より博子夫人と長男ボーロー君

地の鹽なり

山高く水清き小丸川のほとりに呱呱の聲をあげ、世界的偉人として知られたる石井十次氏に私淑せる・貧しき人々の為に身を捧ぐる馬島ドクトル。

馬島氏の家庭、向かつて右より博子夫人とボーロー君、馬島氏令妹久子、馬島ドクトル、長女洋子

花に咲き誇る草花も噴門勢家の
 庭に咲けば唯一個の秘められたる
 花にすぎぬ若し一茎の百合の花も
 荒涼たる原野に笑めは無限の情運
 を多くの人々に興へるものである

X X X

神戸新川及兵庫五番町部活の貧民
 の貧民のために限りなき熱心愛を
 を掛け病みさ機ぬきに咳く人々に
 唯一の慰安者であり救済者であつ
 たドクトル馬島彌氏は二十日神戸
 出帆のエムプレス・オプ・ジャパン
 號で米國市俄古へ醫學研究のため
 留學することとなつた
 馬島氏は明治廿七年彼の武者小路
 氏が現に建設して居る新しき
 共産村の附近小丸川の邊り

宮崎縣兒湯郡高鍋町に生れ幼時
 から岡山孤兒院の創設者石井十
 次氏に私淑し學問を受け成じ

て徳島中學に入學し徳島の若林
 病院長若林虎吾博士の立附番と
 なり苦學を續け中學卒業後名古屋
 醫學專に入學、苦學力行の末太
 正七年同校を卒業すると直ぐ徳
 島の若林病院に戻つて一般醫術
 の診療に従事してゐたが同窓の
 先輩賀川豊彦氏が神戸新川の貧
 民窟裡に貧民救済のために全力
 を擧げて奮闘せるに感服し自ら
 仁術を施すを以て醫師の本懐と
 する以上類らく誰一人として顧
 みない是等無辜の貧民の友とな
 り命の護らならむと發奮し折か
 ら賀川氏の懇請を心克く容れて
 來神、寓居を兵庫五番丁の部落
 内に構へ爾來今日に到るまで朝
 は同氏の邸宅なる友愛救済所で

午後は新川部落賀川氏方のイエ
 ス教濟所で毎日數十名の病め
 る貧民達に無料で基督の愛と熱
 心を以て診療に従事し健やかな
 者には薬と食事を興へ心の備め
 る者には道を説き何等の名聞利
 達を求めずして隱れたる地の靈

(欠)

た
 今日賀川豊彦氏が日本に於ける貧
 民研究者として第一人の名聲ある
 とせばその功績の過半は賀川氏の
 蔭に隠れて氏の事業を獻身的に援
 助して來た馬島氏の賜である

X X X

- ◆ 繚乱と咲き誇る草花も城門勢家の庭に咲けば唯一個の秘められたる花にすぎぬ若し一茎の百合の花も荒涼たる原野に笑めば無限の情趣を多くの人々に与へるものである。
- ◆ 神戸新川及び兵庫五番町部落の数万の貧民のために限りなき熱と愛とを捧げ病みと飢えとに嘆く人々に唯一の慰安者であり救済者であったドクトル馬島憊氏は二十日神戸出帆のエムプレス・オブ・ジャパン号で米国市俄古へ医学研究のため留学することになった。馬島氏は明治廿七年彼の武者小路氏が現に建設して居る新しき共産村の付近小丸川の辺り宮崎県児湯郡高鍋町に生まれ幼時から岡山孤児院の創設者石井十次氏に私淑し感銘を受け長じて徳島中学に入学し徳島の若林病院長若林虎吾博士の玄関番となり苦学を続け中学卒業後名古屋医専に入学、苦学力行の末大正七年同校を卒業すると直ぐ徳島の若林病院に戻って一般医術の診療に従事していたが同郷の先輩賀川豊彦氏が神戸新川の貧民窟俚に貧民救済のために全力を挙げて奮闘せるに感激し自ら仁術を施すを以て医師の本懐とする以上須らく誰一人として顧みない是等無辜の貧民の友となり命の親とならむと発奮し折から賀川氏の懇請を心克く容れて来神、寓居を兵庫五番町の部落内に構え爾来今日に到るまで朝は同氏の邸宅なる友愛救済所で午後は新川部落賀川氏方のイエス団救済所で毎日数十名の病める貧民達に無料で基督の愛と熱とを以て診療に従事し飢えたる者には薬と食とを与へ心の悩める者には道を説き何等の名聞利達みょうもんりだつを求めずして隠れたる？の？（欠）た
- ◆ 今日賀川豊彦氏が日本に於ける貧民研究者として第一人の名声あるとせばその功績の過半は賀川氏の陰に隠れて氏の事業を献身的に援助して来た馬島氏の賜である。

一日留學前の馬島氏をその寓居に訪へば温容迫らざる態度でいと謙遜に語る

私の學生の目的は貧民窟に衛生思想の普及を計ることである、私が神戸に来て貧民の診療に従事してから約數千人を治療したが醫藥の資料と衛生の思想とに乏しき人程悲惨な者はない、私の洋行も期する處世界の貧民窟の衛生状態の視察に外ならぬ、今回は先づ市俄古に行き日本基督青年會館に落ちつきドクトル、ヂー・タイラー氏及ミス、ゼー・アダムス氏等の經營になるセツトルメント・ウオークの手傳ひをなす旁々彼地の貧民窟内に生活して親しく貧民の心理及生活状態等を調査し歸りには英、獨

等に立ち寄り貧民窟を一々視察して來るつもりで旅程は約二箇年です、何れ私が神戸に歸つた際には再び新川及五番町部落民のために厭くまで初一念に向つて進むつもりである

因に新川及五番町部落の有志連は馬島氏の過去の勞苦に感謝し合せて其行を旺にする目的で大舉して同氏の乗船を見送つた、又馬島氏の渡米中友愛救濟所及イエス團の無料診療事業に醫師於生泰造氏が引受くることとなつたが同氏も貧民の主義に感激して挺身貧民救濟事業に従事することとなつたことである

◆ 一日留學前の馬島氏をその寓居に訪へば温容迫らざる態度でいと謙遜に語る。

私の學生の目的は貧民窟に衛生思想の普及を計ることである、私が神戸に来て貧民の診療に従事してから約數千人を治療したが醫藥の資料と衛生の思想とに乏しき人程悲惨な者はない、私の洋行も期する處世界の貧民窟の衛生状態の視察に外ならぬ、今回は先づ市俄古に行き日本基督青年會館に落ちつきドクトル、ヂー・タイラー氏及び

ミス、ゼー・アダムス氏等の経営になるセトルメント・ウオークの手伝ひをなす旁々
彼地の貧民窟内に生活して親しく貧民の心理及び生活状態等を調査し帰りには英、独等
に立ちより貧民窟を一々視察して来るつもりで旅程は約二箇年です、何れ私が神戸に帰っ
た暁には再び新川及び五番町部落のために厭くまで初一念に向かつて進むつもりである。
と、因みに新川及び五番町部落の有志連は馬島氏の過去の労苦に感謝し合わせて其の
行を旺さかんにする目的で大挙して同氏の乗船を見送った、また馬島氏の渡米中友愛救済所及
びイエス団の無料診療事業は医師於生泰造氏が引き受くることゝなったが同氏も賀川氏の
主義に感激して挺身貧民救済事業に従事することゝなったとのことである。

過日（2011年3月18日）、賀川記念館ミュージアムより「イエス団友愛医院」救済
所設立許可願資料と標題の付けられた貴重なコピーを頂いた。大正6年10月24日付
の「設立許可願」で、「神戸警察署」「神戸市」「内務部」など関連資料と、大正7年8月2
7日付の「兵庫県知事清野長太郎」による「認可」書面もあった。

（2011年3月23日記す。鳥飼慶陽）